



シンポジウムに参加して うつ病経験者からみた 「欲望形成支援」

シンポジウム「オープンダイアログと中動態の世界」に行ってきました。参加者は450名で満員札止め。5日前にはチケット入手不能という盛況ぶり。「オープンダイアログ」と「中動態」の直接コンタクト、しかも『中動態の世界』の著者、國分功一郎さんご本人が登壇とくれば、各方面からオーディエンスが集まるのも納得ですね。

そして実際、これがまあ素晴らしい体験でした。思うところがたくさんあったのですが、ここではいちばん印象に残ったことを記しておきます。

■激しく膝打ちのひと言

『中動態の世界——意志と責任の考古学』はその副題のとおり、意志と責任についての本です。例えば「自分の意志で決めたのだから、君には責任が発生する」のような、お決まりのフレーズを信じきってしまってよいのだろうか？ というようなことが書かれています。

颯爽と登場した國分さんは、中動態について本当にわかりやすく説明してくださった後（いや、録音しておけばよかった）、こんな投げかけを。

「臨床の現場で、意思決定支援という言葉がよく出てきますが、これがどうもしっくりこない。欲望形成支援でなぜいけないのか？」

ボンッ！ これを聞いて私は、実際に音が出るくらい膝を叩きましたね。これにはもう実体験からも激しく同意というか。

■病室あるある「意思決定支援」

うつ病で入院している、あるサラリーマンがいます（これ昔の私です。笑）。その患者に看護師さんがこんなことを聞きました。

「明日、皆で絵を描く会があります。よかったら参加してみませんか？ きっと気分転換になると思います。参加するならここにチェックをつけてください。当日急に欠席でも構いませんよ」

聞かれた患者はその時えらく気分が沈んでい

て、死にたいという苦しみに耐えることで精一杯でした。なので、行くか行かないか、自分の気持ちを正確に把握することができません。それ以前に、自分の気持ちに向き合おうとするとひどくつらい思いをします。なので、目の前の看護師さんから、そして、自分の気持ちに向き合わなければならない事態から逃れるために（この場を早く終わらせたいがために）、名簿の自分の名前の横に☑を付けました。

ここで、この一連のやり取りを意思決定支援と呼んだとします。看護師さんの側からすると、気分転換になるという明るい未来に向け、この患者さんは絵を描く会に参加するという意思決定を行うことができた。つまり意思決定への支援を行うことができた、となりそうです。でも、患者にすれば、この場を終わらせたいという気分から☑を選択しただけで、医療の側が考える意思決定支援と呼ばれるようなことはされていないんですね。

■欲望を欲望してる俺

——なんだよ、詭弁だな。意志と選択と何が違うんだよ、とおっしゃるかもしれません。だからそれは……目を閉じて考えますね……あー何も思い浮かばねえ。あれこれ考えたくなくなってきた……。何か飲んで一息ついてえ……。お、俺は何かを飲みたかったんだ!!

どうやら私たちは、自覚できていない欲望というものをたくさん持っているみたいです。そして何かの拍子に（↑この場合、困って目を閉じることで）、自覚できていない欲望を発見し選択する。

俺たちうつ病患者は欲望を自覚・発見する力が低下してしまっているから、ここを手助けしてほしいんですよね。まあ言ってみれば、「選択したくなるような欲望がほしい」ってどこかで思っているというか。だから、その人がこれまでの人生を通じて“潜在的に持っているはずの欲望”を形づくるという、國分さんが言うような支援が成り立つんじゃないでしょうか。

え、何？ もう字数がない？ 残念。でも、乗せられるままに書いていたら、ますますこのことについて書いてみたいという欲望がたぎってまいりました。欲望形成支援、恐縮です。

精